

ほんぶん  
本文

かい てい あん 改 定 案	げん こう 現 行
平成 27 年 12 月 16 日 改定 令和 5 年 〇 月 〇 日 (イ) 理 事 長 決 定	平成 27 年 12 月 16 日 (新設) 理 事 長 決 定
もくてき (目的)	もくてき (目的)
だい じょう    この 要 領 (以下「対 応 要 領」という。)は、しょうがい りゆう と する 差別の 解 消 の 推 進 に 関 す る 法 律 (平成 25 年 法 律 第 65 号。以下「法」 という。)第 9 条 第 1 項 の 規 定 に 基 づ き、また、しょうがい りゆう と する 差別 の 解 消 の 推 進 に 関 す る 基 本 方 針 (令和 5 年 3 月 14 日 閣 議 決 定。以下 「基本方針」という。)に 即 して、法 第 7 条 に 規 定 す る 事 項 に 関 し、独 立 行 政 法 人 日 本 高 速 道 路 保 有 ・ 債 務 返 済 機 構 の 職 員 (臨時 職 員 を 含 む。以下 「職員」という。)が 適 切 に 対 応 す る た め に 必 要 な 事 項 を 定 め る こ と を	だい じょう    この 要 領 (以下「対 応 要 領」という。)は、しょうがい りゆう と する 差別の 解 消 の 推 進 に 関 す る 法 律 (平成 25 年 法 律 第 65 号。以下「法」 という。)第 9 条 第 1 項 の 規 定 に 基 づ き、また、しょうがい りゆう と する 差別の 解 消 の 推 進 に 関 す る 基 本 方 針 (平成 27 年 2 月 24 日 閣 議 決 定。以下「基本 方針」という。)に 即 して、法 第 7 条 に 規 定 す る 事 項 に 関 し、独 立 行 政 法 人 日 本 高 速 道 路 保 有 ・ 債 務 返 済 機 構 の 職 員 が 適 切 に 対 応 す る た め に 必 要 な 事 項 を 定 め る こ と を 目 的 と す る。

もくてき  
目的とする。(イ)

ふとう きべつてきとりあつか きんし  
(不当な差別的取扱いの禁止)

だい じょう しょくいん 職員は、その事務又は事業を行 うに当たり、しょうがい しんたい  
第2条 職員は、その事務又は事業を行 うに当たり、障害(身体

しょうがい ちてきしょうがい せいしんしょうがい はったつしょうがいおよ こうじのうきのうしょうがい ふく  
障害、知的障害、精神障害(発達障害及び高次脳機能障害を含

む。)その他の心身の機能の障害(難病等に起因する障害を含む。)

をいう。以下同じ。)を理由として、しょうがいしゃ しょうがい もの  
をいう。以下同じ。)を理由として、障害者(障害がある者であって、

しょうがいおよ しゃがいてきしょうへき けいぞくてき にちじょうせいかつまた しゃがいせいかつ  
障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に

相当な制限を受ける状態にあるものをいう。以下同じ。)でない者

ふとう きべつてきとりあつか しょうがいしゃ けんりりえき しんがい  
不当な差別的取扱いをすることにより、障害者の権利利益を侵害して

はならない。(イ)

2 (同右)

ごうりてきはいいよ ていきよう  
(合理的配慮の提供)

ふとう きべつてきとりあつか きんし  
(不当な差別的取扱いの禁止)

だい じょう しょくいん 職員は、その事務又は事業を行 うに当たり、しょうがい しんたい  
第2条 職員は、その事務又は事業を行 うに当たり、障害(身体

しょうがい ちてきしょうがい せいしんしょうがい はったつしょうがい ふく  
障害、知的障害、精神障害(発達障害を含む。)その他の心身の

機能の障害をいう。以下同じ。)を理由として、しょうがいしゃ しょうがい  
機能の障害をいう。以下同じ。)を理由として、障害者(障害がある

者であって、しょうがいおよ しゃがいてきしょうへき けいぞくてき にちじょうせいかつまた  
者であって、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は

社会生活に相当な制限を受ける状態にあるもの。以下同じ。)でない者

ふとう きべつてきとりあつか しょうがいしゃ けんりりえき しんがい  
と不当な差別的取扱いをすることにより、障害者の権利利益を侵害し

てはならない。

2 しょくいん ぜんこう きてい じっし  
職員は、前項の規定の実施にあたっては、別紙の第1から第3に示す

じこう りゅうい  
事項に留意するものとする。

ごうりてきはいいよ ていきよう  
(合理的配慮の提供)

だい じょう どうみぎ  
第 3 条 (同右)

2 (どうみぎ)

かんとくしゃ さきむ  
(監督者の責務)

だい じょう どうみぎ  
第 4 条 (同右)

だい じょう しょくいん は、そのじむ または じぎょう を 行うに あたり、しょうがいしゃ げん  
に 社会的 障 壁 の 除去 を 必要 と している 旨 の 意思 の 表 明 が あった 場合  
において、その 実施 に 伴 う 負担 が 過 重 で ない ときは、しょうがいしゃ けんり  
利益 を 侵害 すること とならない よう、当該 障 害 者 の 性別、年齢 及び  
障 害 の 状 態 に 応 じて、社会的 障 壁 の 除去 の 実施 について 必要 かつ  
合理的 な 配 慮 (以下「合理的 配 慮」という。) の 提 供 を しな ければ なら  
ない。

2 しょくいん は、ぜんこう きてい じっし に あたって は、べっし だい だい しめ  
事項 に 留 意 する もの と する。

かんとくしゃ さきむ  
(監督者の責務)

だい じょう しょくいん かちょう そうとう しょうがい じょう ち い もの い か かんとくしゃ  
第 4 条 職 員 の うち、課 長 相 当 職 以 上 の 地 位 に ある 者 (以下「監督者」  
という。) は、ぜん じょう かか じこう かんし しょうがい りゆう きべつ  
解 消 を 推 進 する ため、次 の 各 号 に 掲 げる 事項 を 実施 しな ければ なら ない。

2 (同右)

(懲戒処分)

第5条 (同右)

い。

一 日常の執務を通じた指導等により、障害を理由とする差別の

解消に関し、監督する職員の注意を喚起し、障害を理由とする

差別の解消に関する認識を深めさせること。

二 障害者から不当な差別的取扱い、合理的配慮の不提供に対する

相談、苦情の申し出等があった場合は、迅速に状況を確認するこ

と。

三 合理的配慮の必要性が確認された場合、監督する職員に対して、

合理的配慮の提供を適切に行うよう指導すること。

2 監督者は、障害を理由とする差別に関する問題が生じた場合には、

当該問題に迅速かつ適切に対処しなければならない。

(懲戒処分)

第5条 職員が障害者に対し、不当な差別的取扱い、過重な負担が

（相談体制の整備）

第6条（同右）

2（同右）

3（同右）

ないにも関わらず合理的配慮の不提供、又はその他の法、基本方針若し

くは対応要領の規定に違反する行為を行った場合には、その行為の態

様等によっては、職務上の義務に違反し、又は職務を怠った場合等に

該当し、懲戒処分が付されることがある。

（相談体制の整備）

第6条 障害者及びその家族その他の関係者からの相談等に的確

に対応するための相談窓口を、総務部総務課とする。

2 相談等に対応する際には、性別、年齢、状態等にも配慮するととも

に、対面のほか、電話、ファックス、電子メールに加え、障害特性に応

じた多様なコミュニケーション手段を可能な範囲で用意して対応するも

のとする。

3 第1項の相談窓口に寄せられた相談事例等は、順次蓄積を行うこ

ととし、蓄積した事例は、相談者の個人情報やプライバシーに配慮し

4 (同右)

(研修・啓発)

第7条 障害を理由とする差別の解消の推進を図るため、職員に対し、

法や基本方針等の周知や、障害者から話を聞く機会を設けるな

ど必要な研修・啓発を行うものとする。(イ)

2 (同右)

つつ、関係者間で共有を図り、以後の相談等において適宜活用するものとする。

4 第1項の相談窓口は、必要に応じ、充実を図るよう努めるものとする。

(研修・啓発)

第7条 障害を理由とする差別の解消の推進を図るため、職員に対し、

必要な研修・啓発を行うものとする。

2 新たに職員となった者に対しては、障害を理由とする差別の解消

に関する基本的な事項について理解させるために、また、新たに監督者

となった職員に対しては、障害を理由とする差別の解消等に関し求

められる役割について理解させるために、それぞれ研修を実施するもの

とする。

3 職員<sup>しよくいん</sup>に対し、障害<sup>しょうがい</sup>の特性<sup>とくせい</sup>を理解<sup>りかい</sup>させるとともに、性別<sup>せいべつ</sup>や年齢<sup>ねんれい</sup>等<sup>とう</sup>にも配慮<sup>はいりょ</sup>しつつ障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>へ適切<sup>てきせつ</sup>に対応<sup>たいおう</sup>するために必要なマニュアル等<sup>ひつよう まにゅあるとう</sup>により、意識<sup>いしき</sup>の啓発<sup>けいはつ</sup>を図<sup>はか</sup>るものとする。(イ)

附 則<sup>ふそく</sup>

この対応要領<sup>たいおうようりょう</sup>は、平成<sup>へいせい</sup>28年<sup>ねん</sup>4月<sup>がつ</sup>1日<sup>にち</sup>から施行<sup>しこう</sup>する。

附 則<sup>ふそく</sup>

この対応要領<sup>たいおうようりょう</sup>は、令和<sup>れいわ</sup>6年<sup>ねん</sup>4月<sup>がつ</sup>1日<sup>にち</sup>から施行<sup>しこう</sup>する。(イ)

3 職員<sup>しよくいん</sup>に対し、障害<sup>しょうがい</sup>の特性<sup>とくせい</sup>を理解<sup>りかい</sup>させるとともに、障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>へ適切<sup>てきせつ</sup>に対応<sup>たいおう</sup>するために必要なマニュアル等<sup>ひつよう まにゅあるとう</sup>により、意識<sup>いしき</sup>の啓発<sup>けいはつ</sup>を図<sup>はか</sup>るものとする。

附 則<sup>ふそく</sup>

この対応要領<sup>たいおうようりょう</sup>は、平成<sup>へいせい</sup>28年<sup>ねん</sup>4月<sup>がつ</sup>1日<sup>にち</sup>から施行<sup>しこう</sup>する。

(新設<sup>しんせつ</sup>)

## 別紙

どくりつぎょうせいほうじんにほんこうそくどうろほゆう さいむへんさいきこう しょうがい りゆう さべつ かいしょう すいしん かん たいおうようりょう かか りゅういじこう  
 独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領に係る留意事項

改定案	現行
<p>だい ふとう さべつてきとりあつか きほんてき かんが かた            第1 不当な差別的取扱いの基本的な考え方</p> <p>ほう しょうがいしゃ たい せいとう りゆう しょうがい りゆう さい            法は、障害者に対して、正当な理由なく、障害を理由として、財・</p> <p>さーびす かくしゅきかい ていきょう きょひ また ていきょう あ ばしょ じかんたい            サービスや各種機会の提供を拒否する又は提供に当たって場所・時間帯</p> <p>などを制限する、障害者でない者に対しては付さない条件を付けるこ            となどにより、障害者の権利利益を侵害することを禁止している。<u>なお、</u></p> <p><u>くるまいす ほじょけん た しえんききとう りよう かいじょしゃ つきそ とう しゃがいてき</u>  <u>車椅子、補助犬その他の支援機器等の利用や介助者の付添い等の社会的</u></p> <p><u>しょうへき かいしょう しゅだん りようとう りゆう おこな ふとう</u>  <u>障壁を解消するための手段の利用等を理由として行われる不当な</u></p> <p><u>さべつてきとりあつか しょうがい りゆう ふとう さべつてきとりあつか がいとう</u>  <u>差別的取扱いも、障害を理由とする不当な差別的取扱いに該当する。</u></p> <p>(イ)</p> <p>(同右)</p>	<p>だい ふとう さべつてきとりあつか きほんてき かんが かた            第1 不当な差別的取扱いの基本的な考え方</p> <p>ほう しょうがいしゃ たい せいとう りゆう しょうがい りゆう さい            法は、障害者に対して、正当な理由なく、障害を理由として、財・</p> <p>さーびす かくしゅきかい ていきょう きょひ また ていきょう あ ばしょ じかんたい            サービスや各種機会の提供を拒否する又は提供に当たって場所・時間帯</p> <p>などを制限する、障害者でない者に対しては付さない条件を付けるこ            となどにより、障害者の権利利益を侵害することを禁止している。</p> <p>ただし、しょうがいしゃ じじつじょう びようどう そくしん また たっせい ひつよう            ただし、障害者の事実上の平等を促進し、又は達成するために必要</p>





<p>だい せいとう りゆう はんだん してん 第2 正当な理由の判断の視点</p> <p>(どうみぎ 同右)</p> <p>しょくいん せいとう りゆう はんだん ばあい しょうがいしゃ りゆう 職員は、正当な理由があると判断した場合には、障害者にその理由を</p> <p>ていねい せつめい 丁寧の説明するものとし、理解を得るよう努めることが望ましい。その際、</p>	<p>だい せいとう りゆう はんだん してん 第2 正当な理由の判断の視点</p> <p>せいとう りゆう そうとう しょうがいしゃ しょうがい りゆう ざい・ 正当な理由に相当するのは、障害者に対して、障害を理由として、財・</p> <p>きーびす かくしゅきかい ていきょう きょひ とりあつか きゃっかんてき み サービスや各種機会の提供を拒否するなどの取扱いが客観的に見て</p> <p>せいとう もくてき もと おこな もくてき て え 正当な目的の下に行われたものであり、その目的に照らしてやむを得な</p> <p>い ばあい どりつぎょうせいほうじんにほんこうそくどうろほゆう さいむへんさいきこう い か いと言える場合である。独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構以下</p> <p>「きこう」という。)においては、正当な理由に相当するか否かについて、個別</p> <p>じあん しょうがいしゃ だいさんしゃ けんりりえき れい あんぜん かくほ ざいさん ほぜん の事案ごとに、障害者、第三者の権利利益(例：安全の確保、財産の保全、</p> <p>そんがいはっせい ぼうしとう およ きこう じむ じぎょう もくてき ないよう きのう いじとう 損害発生防止等)及び機構の事務・事業の目的・内容・機能の維持等</p> <p>かんてん かんが ぐたいきばめん じょうきょう おう そうごうてき きゃっかんてき はんだん の観点に鑑み、具体的場面や状況に応じて総合的・客観的に判断す</p> <p>ることが必要である。</p> <p>しょくいん せいとう りゆう はんだん ばあい しょうがいしゃ りゆう 職員は、正当な理由があると判断した場合には、障害者にその理由を</p> <p>せつめい 説明するものとし、理解を得るよう努めることが望ましい。</p>

<p> <small>しよくいん しょうがいしゃ そうほう たが あいて たちば そんちよう そうごりかい</small>  <u>職 員 と 障 害 者 の 双 方 が 、 お 互 い に 相 手 の 立 場 を 尊 重 し な が ら 相 互 理 解</u> </p> <p> <small>はか ちと い</small>  <u>を 図 る こ と が 求 め ら れ る 。 ( イ )</u> </p> <p> <small>どうみぎ</small>  ( 同 右 ) </p>	<p> <small>きやつかんてき はんだん しゅかんてき はんだん ゆだ</small>  なお、「客 観 的 に 判 断 す る 」 と は 、 主 観 的 な 判 断 に 委 ね ら れ る の で は な </p> <p> <small>しゅちよう きやつかんてき じじつ うらづ だいさんしゃ たちば み</small>  く、その 主 張 が 客 観 的 な 事 実 に よ っ て 裏 付 け ら れ 、 第 三 者 の 立 場 か ら 見 </p> <p> <small>なつとく え きやつかんせい ひつよう</small>  て も 納 得 を 得 ら れ る よ う な 「 客 観 性 」 が 必 要 と さ れ る も の で あ る 。 ま た 、 </p> <p> <small>せいとう りゆう かくだいかいしゃく おこな ぐたいてき けんとう おこな</small>  「 正 当 な 理 由 」 に つ い て 、 拡 大 解 釈 を 行 っ た り 具 体 的 な 検 討 を 行 う こ </p> <p> <small>れい たん あんぜん かくほ せつめい さーびす ていきよう</small>  と な く 、 例 え ば 単 に 安 全 の 確 保 な ど と い う 説 明 の み で サ ー ビ ス を 提 供 し </p> <p> <small>ふとう さべつてきとりあつか きんし ほう しゅし けいがいか</small>  な い と い っ た こ と は 、 不 当 な 差 別 的 取 扱 い を 禁 止 す る 法 の 趣 旨 を 形 骸 化 す </p> <p> <small>たいおう てきせつ</small>  る 対 応 で あ り 適 切 で は な い </p>
<p> <small>だい ふとう さべつてきとりあつか れい</small>  第 3 不 当 な 差 別 的 取 扱 い の 例 </p> <p> <small>せいとう りゆう ふとう さべつてきとりあつか がいとう かんが れいおよ</small>  <u>正 当 な 理 由 が な く 、 不 当 な 差 別 的 取 扱 い に 該 当 す る と 考 え ら れ る 例 及</u> </p> <p> <small>せいとう りゆう ふとう さべつてきとりあつか がいとう かんが</small>  <u>び 正 当 な 理 由 が あ る た め 、 不 当 な 差 別 的 取 扱 い に 該 当 し な い と 考 え ら れ</u> </p>	<p> <small>だい ふとう さべつてきとりあつか ぐたいれい</small>  第 3 不 当 な 差 別 的 取 扱 い の 具 体 例 </p> <p> <small>ふとう さべつてきとりあつか あ う ぐたいれい い か</small>  <u>不 当 な 差 別 的 取 扱 い に 当 た り 得 る 具 体 例 は 以 下 の と お り で あ る 。 な お 、</u> </p> <p> <small>だい しめ ふとう さべつてきとりあつか そうとう いな</small>  第 2 で 示 し た と お り 、 不 当 な 差 別 的 取 扱 い に 相 当 す る か 否 か に つ い て は 、 </p>

る例<sup>れい</sup>としては、次<sup>つぎ</sup>のようなものがある。なお、記載<sup>きさい</sup>されている内容<sup>ないよう</sup>はあくま

でも例示<sup>れいじ</sup>であり、正当<sup>せいとう</sup>な理由<sup>りゆう</sup>に相当<sup>そうとう</sup>するか否<sup>いな</sup>かについては、個別<sup>こべつ</sup>の事案<sup>じあん</sup>ご

とに、前<sup>ぜん</sup>述<sup>じゆつ</sup>の観<sup>かん</sup>点<sup>てん</sup>等<sup>とう</sup>を踏<sup>ふ</sup>まえて判<sup>はん</sup>断<sup>だん</sup>するこが必<sup>ひつ</sup>要<sup>よう</sup>であること、正<sup>せい</sup>当<sup>とう</sup>な

理<sup>り</sup>由<sup>ゆう</sup>があ<sup>ふ</sup>り不<sup>さ</sup>当<sup>べつ</sup>な差<sup>さ</sup>別<sup>べつ</sup>的<sup>てき</sup>取<sup>き</sup>扱<sup>あ</sup>い<sup>ごう</sup>に該<sup>が</sup>当<sup>たい</sup>しな<sup>い</sup>い場<sup>ば</sup>合<sup>あい</sup>であ<sup>ご</sup>う<sup>り</sup>てき<sup>は</sup>い<sup>り</sup>よ

の提<sup>てい</sup>供<sup>きよう</sup>を求<sup>もと</sup>めら<sup>ば</sup>れる場<sup>ば</sup>合<sup>あい</sup>に<sup>べつ</sup>と<sup>けん</sup>の検<sup>けん</sup>討<sup>とう</sup>が必<sup>ひつ</sup>要<sup>よう</sup>であること<sup>りゆう</sup>に留<sup>りゅう</sup>意<sup>い</sup>する。

(イ)

(正<sup>せい</sup>当<sup>とう</sup>な理<sup>り</sup>由<sup>ゆう</sup>がな<sup>ふ</sup>く、不<sup>さ</sup>当<sup>べつ</sup>な差<sup>さ</sup>別<sup>べつ</sup>的<sup>てき</sup>取<sup>き</sup>扱<sup>あ</sup>い<sup>ごう</sup>に該<sup>が</sup>当<sup>たい</sup>する<sup>かん</sup>が考<sup>かん</sup>えら<sup>る</sup>る

例<sup>れい</sup>)(イ)

障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>以<sup>い</sup>外<sup>がい</sup>の理<sup>り</sup>由<sup>ゆう</sup>がな<sup>な</sup>い<sup>しょう</sup>が<sup>い</sup>に<sup>りゆう</sup>に<sup>な</sup>もか<sup>しょう</sup>か<sup>い</sup>わ<sup>ら</sup>ず、障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>があ<sup>り</sup>るこ<sup>りゆう</sup>を理<sup>りゆう</sup>由<sup>い</sup>に

窓<sup>まど</sup>口<sup>ぐち</sup>対<sup>たい</sup>応<sup>おう</sup>を拒<sup>きょ</sup>否<sup>ひ</sup>する。(イ)

障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>以<sup>い</sup>外<sup>がい</sup>の理<sup>り</sup>由<sup>ゆう</sup>がな<sup>な</sup>い<sup>しょう</sup>が<sup>い</sup>に<sup>りゆう</sup>に<sup>な</sup>もか<sup>しょう</sup>か<sup>い</sup>わ<sup>ら</sup>ず、障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>があ<sup>り</sup>るこ<sup>りゆう</sup>を理<sup>りゆう</sup>由<sup>い</sup>に

対<sup>たい</sup>応<sup>おう</sup>の順<sup>じゆん</sup>序<sup>じょ</sup>を後<sup>あと</sup>回<sup>まわ</sup>しに<sup>い</sup>する。(イ)

障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>以<sup>い</sup>外<sup>がい</sup>の理<sup>り</sup>由<sup>ゆう</sup>がな<sup>な</sup>い<sup>しょう</sup>が<sup>い</sup>に<sup>りゆう</sup>に<sup>な</sup>もか<sup>しょう</sup>か<sup>い</sup>わ<sup>ら</sup>ず、障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>があ<sup>り</sup>るこ<sup>りゆう</sup>を理<sup>りゆう</sup>由<sup>い</sup>に

個<sup>こ</sup>別<sup>べつ</sup>の事<sup>じ</sup>案<sup>あん</sup>ご<sup>はん</sup>とに判<sup>はん</sup>断<sup>だん</sup>され<sup>い</sup>ること<sup>か</sup>と<sup>きさい</sup>なる。ま<sup>ぐ</sup>た<sup>い</sup>に記<sup>き</sup>載<sup>さい</sup>され<sup>い</sup>る具<sup>ぐ</sup>体<sup>たい</sup>

例<sup>れい</sup>につ<sup>せい</sup>いては、正<sup>せい</sup>当<sup>とう</sup>な理<sup>り</sup>由<sup>ゆう</sup>が存<sup>そん</sup>在<sup>ざい</sup>しな<sup>ぜん</sup>いこ<sup>てい</sup>を前<sup>ぜん</sup>提<sup>てい</sup>とし<sup>て</sup>い<sup>る</sup>こ<sup>と</sup>、さ<sup>ら</sup>

に、それ<sup>れ</sup>らはあ<sup>く</sup>ま<sup>で</sup>も例<sup>れい</sup>示<sup>じ</sup>であり、記<sup>き</sup>載<sup>さい</sup>され<sup>い</sup>る具<sup>ぐ</sup>体<sup>たい</sup>例<sup>れい</sup>だ<sup>け</sup>に<sup>かぎ</sup>限<sup>り</sup>られ<sup>る</sup>

も<sup>で</sup>な<sup>い</sup>こ<sup>と</sup>に留<sup>りゅう</sup>意<sup>い</sup>する<sup>ひつ</sup>必<sup>よう</sup>要<sup>がある</sup>。

(不<sup>ふ</sup>当<sup>たう</sup>な差<sup>さ</sup>別<sup>べつ</sup>的<sup>てき</sup>取<sup>き</sup>扱<sup>あ</sup>い<sup>ごう</sup>に<sup>あ</sup>た<sup>う</sup>り得<sup>ぐ</sup>る具<sup>ぐ</sup>体<sup>たい</sup>例<sup>れい</sup>)

障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>を理<sup>り</sup>由<sup>ゆう</sup>に窓<sup>まど</sup>口<sup>ぐち</sup>対<sup>たい</sup>応<sup>おう</sup>を拒<sup>きょ</sup>否<sup>ひ</sup>する。

障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>を理<sup>り</sup>由<sup>ゆう</sup>に<sup>たい</sup>対<sup>たい</sup>応<sup>おう</sup>の順<sup>じゆん</sup>序<sup>じょ</sup>を<sup>あと</sup>回<sup>まわ</sup>しに<sup>する</sup>。

障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>を理<sup>り</sup>由<sup>ゆう</sup>に書<sup>しょ</sup>面<sup>めん</sup>の交<sup>こう</sup>付<sup>ふ</sup>、資<sup>し</sup>料<sup>りょう</sup>の送<sup>そう</sup>付<sup>ふ</sup>、パ<sup>ぱ</sup>ン<sup>ん</sup>フ<sup>ふ</sup>レ<sup>れ</sup>ッ<sup>と</sup>の提<sup>てい</sup>供<sup>きよう</sup>等<sup>とう</sup>

書面の交付、資料の送付、パンフレットの提供等を拒んだり、資料

等に関する必要な説明を省いたりする。(イ)

障害以外の理由が無いにもかかわらず、障害があることを理由に

説明会、シンポジウム等への出席を拒む。(イ)

事務・事業の遂行上、特に必要ではないにもかかわらず、障害が

あることを理由に、来所の際に付き添い者の同行を求めるなどの

条件を付けたり、特に支障がないにもかかわらず、付き添い者の同行

を拒む。(イ)

○ 障害の種類や程度、サービス提供の場面における本人や第三者

の安全性などについて考慮することなく、漠然とした安全上の

問題を理由に施設利用を拒否する。(イ)

○ 業務の遂行に支障がないにもかかわらず、障害者でない者とは異

なる場所での対応を行う。(イ)

を拒む。

障害を理由に説明会、シンポジウム等への出席を拒む。

事務・事業の遂行上、特に必要ではないにもかかわらず、障害

を理由に、来庁の際に付き添い者の同行を求めるなどの条件を

付けたり、特に支障がないにもかかわらず、付き添い者の同行を拒

んだりする。

(新設)

(新設)

○ 障害があることを理由として、障害者に対して、言葉遣いや接客

(新設)

の態度など一律に接遇の質を下げ。(イ)

○ (正当な理由があるため、不当な差別的取扱いに該当しないと考えら

(新設)

れる例)(イ)

○ 実習を伴う講座において、実習に必要な作業の遂行上具体的

(新設)

な危険の発生が見込まれる障害特性のある障害者に対し、お互い

に相手の立場を尊重しながら相互理解を図った上で、当該実習とは

別の実習を設定すること。(障害者本人の安全確保の観点)(イ)

○ 行政手続を行うため、申請者本人となる障害者本人に同行し

た者が代筆をしようとした際に、必要な範囲で、プライバシーに配慮

(新設)

しつつ、障害者本人に対し障害の状況や本人の取引意思等を

確認すること。(障害者本人の財産の保全の観点)(イ)

だい 第4 <sup>ごうりてきはいりょ きほんてき かんが かた</sup>  
合理的配慮の基本的な考え方

1 <sup>どうみぎ</sup>  
(同右)

<sup>どうみぎ</sup>  
(同右)

だい 第4 <sup>ごうりてきはいりょ きほんてき かんが かた</sup>  
合理的配慮の基本的な考え方

1 <sup>しょうがいしゃ けんり かんするじょうやく い か けんりじょうやく</sup>  
障害者の権利に関する条約(以下「権利条約」という。)第2条

において、「合理的配慮」は、「<sup>しょうがいしゃ ほか もの びょうどう きそ</sup>障害者が他の者との平等を基礎として

<sup>すべ じんけんおよ きほんてきじゆう きょうゆう また こうし</sup>全ての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するた

<sup>ひつよう てきとう へんこうおよ ちようせい</sup>めの必要かつ適当な変更及び調整であって、<sup>とくてい ばあい</sup>特定の場合において

<sup>ひつよう</sup>必要とされるものであり、かつ、<sup>きんこう しつ また か ど ふたん か</sup>均衡を失した又は過度の負担を課さな

いもの」と<sup>ていぎ</sup>定義されている。

<sup>ほう けんりじょうやく ごうりてきはいりょ ていぎ ふ ぎょうせいきかんとく</sup>法は、権利条約における合理的配慮の定義を踏まえ、行政機関等に

<sup>たい じ む また じぎょう おこな あ ここ ばめん しょうがいしゃ</sup>対し、その事務又は事業を行<sup>う</sup>に当たり、個々の場面において、障害者

から<sup>げん しゃがいてきしょうへき じょきょ ひつよう むね い し ひょうめい</sup>現に社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があ

った場合において、その実施に<sup>じっし ともな ふたん かじゅう</sup>伴う負担が過重でないときは、<sup>しょうがいしゃ</sup>障害者

の<sup>けんりりえき しんがい</sup>権利利益を侵害することとならないよう、<sup>しゃがいてきしょうへき じょきょ じっし</sup>社会的障壁の除去の実施

について、<sup>ごうりてきはいりょ</sup>合理的配慮を行うことを求めている。<sup>もと</sup>合理的配慮は、<sup>しょうがいしゃ</sup>障害者

( 削減 )

2 合理的配慮は、障害の特性や社会的障壁の除去が求められる

具体的な場面や状況に応じて異なり、多様かつ個別性の高いものである。

が受ける制限は、障害のみに起因するものではなく、社会における様々な障壁と相対することによって生ずるものとのいわゆる「社会モデル」の考え方を踏まえたものであり、障害者の権利利益を侵害することとならないよう、障害者が個々の場面において必要としている社会的障壁を除去するための必要かつ合理的な取組であり、その実施に伴う負担が過重でないものである。

合理的配慮は、機構の事務・事業の目的・内容・機能に照らし、必要とされる範囲で本来の業務に付随するものに限られること、障害者でない者との比較において同等の機会の提供を受けるためのものであること、事務・事業の目的・内容・機能の本質的な変更には及ばないことに留意する必要がある。

2 合理的配慮は、障害の特性や社会的障壁の除去が求められる

具体的な場面や状況に応じて異なり、多様かつ個別性の高いものであり、



また、その内容は、後述する「環境の整備」に係る状況や、技術

の進展、社会情勢の変化等に応じて変わり得るものである。

合理的配慮は、機構の事務・事業の目的・内容・機能に照らし、必要

とされる範囲で本来の業務に付随するものに限られること、障害者で

ない者との比較において同等の機会の提供を受けるためのものである

こと、事務・事業の目的・内容・機能の本質的な変更には及ばないこと

に留意する必要がある。その提供に当たってはこれらの点に留意した

上で、当該障害者が現に置かれている状況を踏まえ、社会的障壁

の除去のための手段及び方法について、当該障害者本人の意向を

尊重しつつ「第5 過重な負担の基本的な考え方」に掲げる要素を

考慮し、代替措置の選択も含め、双方の建設的対話による相互理解を

通じて、必要かつ合理的な範囲で、柔軟に対応がなされる必要がある。

建設的対話に当たっては、障害者にとっての社会的障壁を除去する

当該障害者が現に置かれている状況を踏まえ、社会的障壁の除去

のための手段及び方法について、「第5 過重な負担の基本的な考え

方」に掲げる要素を考慮し、代替措置の選択も含め、双方の建設的対話

による相互理解を通じて、必要かつ合理的な範囲で、柔軟に対応がなさ

れるものである。さらに、合理的配慮の内容は、技術の進展、社会情勢

の変化等に応じて変わり得るものである。合理的配慮の提供に当たって

は、障害者の性別、年齢、状態等に配慮するものとする。

なお、合理的配慮を必要とする障害者が多数見込まれる場合、

障害者との関係性が長期にわたる場合等には、その都度の合理的配慮

とは別に、後述する環境の整備を考慮に入れることにより、中・

長期的なコストの削減・効率化につながる点は重要である。

ための必要かつ実現可能な対応案を障害者と職員が共に考えていく

ために、双方がお互いの状況の理解に努めることが重要である。例え

ば、障害者本人が社会的障壁の除去のために普段講じている対策や、

職員が対応可能な取組等を対話の中で共有する等、建設的対話を通じ

て相互理解を深め、様々な対応策を柔軟に検討していくことが円滑な

対応に資すると考えられる。(イ)

3 意思の表明に当たっては、具体的場面において、社会的障壁の除去

に関する配慮を必要としている状況にあることを言語(手話を含む。)

のほか、点字、拡大文字、筆談、実物の提示や身振りサイン等による合図、

触覚による意思伝達など、障害者が他人とコミュニケーションを図る

際に必要な手段(手話通訳、要約筆記等を介するものを含む。)により

伝えられる。その際、社会的障壁を解消するための方法等を相手に

(新設)

3 意思の表明に当たっては、具体的場面において、社会的障壁の除去

に関する配慮を必要としている状況にあることを言語(手話を含む。)

のほか、点字、拡大文字、筆談、実物の提示や身振りサイン等による合図、

触覚による意思伝達など、障害者が他人とコミュニケーションを図る

際に必要な手段(手話通訳、要約筆記等を介するものを含む。)により

伝えられる。

わかりやすく伝えることが望ましい。

また、障害者からの意思表示のみでなく、障害の特性等により

本人の意思表示が困難な場合には、障害者の家族、支援者・介助者、

法定代理人等、コミュニケーションを支援する者が、本人を補佐して行

う意思の表明も含む。(イ)

(同右)

4 合理的配慮は、不特定多数の障害者等の利用を想定して事前に行

われる建築物のバリアフリー化、介助者等の人的支援、情報

また、障害者からの意思表示のみでなく、知的障害や精神障害

(発達障害を含む。)等により本人の意思表示が困難な場合には、

障害者の家族、支援者・介助者、法定代理人等、コミュニケーションを

支援する者が本人を補佐して行う意思の表明も含む。

なお、意思の表明が困難な障害者が、家族、支援者・介助者、法定

代理人等を伴っていない場合など、意思の表明がない場合であっても、

当該障害者が社会的障壁の除去を必要としていることが明白であ

る場合には、法の趣旨に鑑みれば、当該障害者に対して適切と思わ

れる配慮を提案するために建設的対話を働きかけるなど、自主的な

取組に努めることが望ましい。

4 合理的配慮は、障害者等の利用を想定して事前に行われる建築物

のバリアフリー化、介助者等の人的支援、情報アクセシビリティの

アクセシビリティの向上等の環境の整備を基礎として、個々の障害者に対して、その状況に応じて個別に実施される措置である。

したがって、各場面における環境の整備の状況により、合理的配慮の内容は異なることとなる。また、障害の状況等が変化することもあるため、特に、障害者との関係性が長期にわたる場合等には、提供する合理的配慮について、適宜、見直しを行うことが重要である。(イ)

(削除)

向上等の環境の整備を基礎として、個々の障害者に対して、その状況に応じて個別に実施される措置である。したがって、各場面における環境の整備の状況により、合理的配慮の内容は異なることとなる。また、障害の状況等が変化することもあるため、特に、障害者との関係性が長期にわたる場合等には、提供する合理的配慮について、適宜、見直しを行うことが重要である。

5 機構がその事務又は事業の一環として実施する業務を事業者に委託

等する場合は、提供される合理的配慮の内容に大きな差異が生ずるこ

とにより障害者が不利益を受けることのないよう、委託等の条件に、

対応要領を踏まえた合理的配慮の提供について盛り込むよう努める

ことが望ましい。

だい 第5 かじゅう ふたん きほんてき かんが かた  
第5 過重な負担の基本的な考え方

(どうみぎ  
同右)

しよくいん 職員は、かじゅう ふたん あ はんだん ばあい、しょうがいしゃ ていねい  
職員は、過重な負担に当たると判断した場合は、障害者に丁寧

の理由を説明するものとし、りかい え つと のぞ  
の理由を説明するものとし、理解を得るよう努めることが望ましい。その

さい 際には、だい きさい しょうがいしゃ そうほう たが あいて  
際には、第2に記載のとおり、職員と障害者の双方が、お互いに相手の

たちば そんちよう けんせつてき たいわ つう そうごりかい はか だいたいそ ち  
立場を尊重しながら、建設的な対話を通じて相互理解を図り、代替措置

のせんたく ふく たいおう じゅうなん けんとう もと い  
の選択も含めた対応を柔軟に検討することが求められる。(イ)

(どうみぎ  
同右)

(どうみぎ  
同右)

(どうみぎ  
同右)

だい 第5 かじゅう ふたん きほんてき かんが かた  
第5 過重な負担の基本的な考え方

かじゅう ふたん については、こべつ じあん ごとに、いか ようそとう こうりよ、  
過重な負担については、個別の事案ごとに、以下の要素等を考慮し、

ぐたいてきばめん しょうきよう あう そうごうてき きやつかんてき はんだん ひつよう  
具体的場面や状況に応じて総合的・客観的に判断することが必要で

ある。

しよくいん 職員は、かじゅう ふたん あ はんだん ばあい、しょうがいしゃ りゆう  
職員は、過重な負担に当たると判断した場合は、障害者にその理由を

の理由を説明するものとし、りかい え つと のぞ  
説明するものとし、理解を得るよう努めることが望ましい。

じ む また じぎょう えいきよう ていど じ む また じぎょう もくてき ないよう きのう  
事務又は事業への影響の程度(事務又は事業の目的・内容・機能を

そこ いな  
損なうか否か)

かのうせい ていど ぶつりてき ぎじゅつてきせいやく じんてき たいせいじょう せいやく  
実現可能性の程度(物理的・技術的制約、人的・体制上の制約)

ひよう ふたん ていど  
費用・負担の程度

( 同右 )

第 6 合理的配慮の例

第 4 で示したとおり、合理的配慮は、具体的場面や状況に応じて異なり、多様かつ個別性の高いものであるが、例としては、次のようなものがある。

なお、記載した例はあくまでも例示であり、記載されている例だけに限られるものではないことに留意する必要がある。(イ)

なお、「過重な負担」とは、主観的な判断に委ねられるのではなく、その

主張が客観的な事実によって裏付けられ、第三者の立場から見ても

納得を得られるような「客観性」が必要とされるものである。また、「過重

な負担」について、拡大解釈を行ったり具体的な検討を行うことなく

合理的配慮の提供を行わないといったことは、合理的配慮の提供を求

める法の趣旨を形骸化する対応であり適切ではない。

第 6 合理的配慮の具体例

第 4 で示したとおり、合理的配慮は、具体的場面や状況に応じて異なり、多様かつ個別性の高いものであるが、具体例としては、次のようなものがある。

なお、記載した具体例については、第 5 で示した過重な負担が存在しないことを前提としていること、また、それらはあくまでも例示であり、記載

(<sup>ぶつりてきかんきよう</sup>物理的環境への<sup>ごうりてきはいいりよ</sup>合理的配慮の例)

(<sup>どうみぎ</sup>同右)

(<sup>どうみぎ</sup>同右)

(<sup>どうみぎ</sup>同右)

(<sup>どうみぎ</sup>同右)

<sup>ひろう</sup>疲労を感じやすい<sup>しょうがいしゃ</sup>障害者から<sup>べっしつ</sup>別室での<sup>きゅうけい</sup>休憩の<sup>もう</sup>申し出があった

されている<sup>ぐたいれい</sup>具体例<sup>かぎ</sup>だけ限られるものではないことに<sup>りゅうい</sup>留意する<sup>ひつよう</sup>必要がある。

(<sup>ぶつりてきかんきよう</sup>物理的環境への<sup>はいりよ</sup>配慮の<sup>ぐたいれい</sup>具体例)

<sup>だんさ</sup>段差がある場合に、<sup>ばあい</sup>車椅子利用者<sup>き</sup>に<sup>きゃすたー</sup>キャスター<sup>こあ</sup>上げ等の<sup>とう</sup>補助<sup>ほじょ</sup>をする、

<sup>けいたい</sup>携帯スロープ<sup>す</sup>を<sup>こぶ</sup>渡す<sup>わた</sup>などする。

<sup>はいかたな</sup>配架棚<sup>たか</sup>の高い<sup>ところ</sup>所に<sup>お</sup>置かれた<sup>ばんふれつ</sup>パンフレット<sup>ととう</sup>等<sup>と</sup>を取<sup>わた</sup>って<sup>わた</sup>渡す。

<sup>ばんふれつ</sup>パンフレット<sup>ととう</sup>等の<sup>い</sup>位置<sup>ち</sup>を<sup>わ</sup>分かりやすく<sup>あし</sup>教える。

<sup>もくてき</sup>目的<sup>ばしょ</sup>の場所<sup>あんない</sup>までの案内<sup>さい</sup>の際<sup>しょうがいしゃ</sup>に、障害者<sup>ほこうそくど</sup>の歩行速度<sup>あ</sup>に<sup>そくど</sup>合わせた速度

<sup>ある</sup>で歩いたり、<sup>さゆう</sup>左右・<sup>ぜんご</sup>前後・<sup>きより</sup>距離<sup>い</sup>の位置<sup>ち</sup>取りについて、<sup>しょうがいしゃ</sup>障害者<sup>きぼう</sup>の希望<sup>き</sup>を

<sup>き</sup>聞いたりする。

<sup>しょうがい</sup>障害<sup>とくせい</sup>の特性<sup>ひんかい</sup>により、頻回<sup>りせき</sup>に離席<sup>ひつよう</sup>の必要がある場合に、<sup>ばあい</sup>会場の<sup>かいじょう</sup>座席<sup>ざせき</sup>

<sup>い</sup>位置<sup>ち</sup>を<sup>とびらふきん</sup>扉付近<sup>に</sup>にする。

<sup>ひろう</sup>疲労を感じやすい<sup>しょうがいしゃ</sup>障害者から<sup>べっしつ</sup>別室での<sup>きゅうけい</sup>休憩の<sup>もう</sup>申し出があった

さい べっしつ かくほ こんなん さい とうがいしょうがいしゃ じじょう せつめい  
際、別室の確保が困難である場合に、当該障害者に事情を説明し、

たいおうまどぐち ちか ながいす いどう りんじ きゅうけいす ぺーす もう  
対応窓口の近くに長椅子を移動させて臨時の休憩スペースを設ける。

(イ)

(同右)

さいがい じ こ はっせい さい かんないほうそう ひなんじょうほうとう きんきゅうじょうほう  
災害や事故が発生した際、館内放送で避難情報等の緊急情報

き むずか ちょうかくしょうがい もの たい でんこうけいじばん て が  
を聞くことが難しい聴覚障害のある者に対し、電光掲示板、手書き

ぼーどとう もち わ あんない ゆうどう はか (イ)  
のボード等を用いて、分かりやすく案内し誘導を図る。(イ)

○ イベント会場において知的障害のある子供が発声やこだわりの

ある 行動 を して しま う 場合 に、 保護者 から 子供 の 特性 や

こみゅにけーしょん ほうほうとう き と うえ お っ  
コミュニケーションの方法等について聞き取った上で、落ち着かない

ようす こしつとう ゆうどう (イ)  
様子のときは個室等に誘導する。(イ)

さい べっしつ かくほ こんなん さい とうがいしょうがいしゃ じじょう せつめい  
際、別室の確保が困難であったことから、当該障害者に事情を説明

し、 たいおうまどぐち ちか ながいす いどう りんじ きゅうけいす ぺーす もう  
対応窓口の近くに長椅子を移動させて臨時の休憩スペースを設

ける。

ふずいいうんどうとう しょういとう お むずか しょうがいしゃ たい  
不随意運動等により書類等を押さえることが難しい障害者に対

し、 しょくいん しょうい お ばい だ ことう こていきぐ ていきよう  
職員が書類を押さえたり、バインダー等の固定器具を提供した

りする。

(新設)

(新設)



○ 視覚障害のある者からトイレの個室を案内するよう求めがあった

場合に、求めに応じてトイレの個室を案内する。その際、同性の職員

がいる場合は、障害者本人の希望に応じて同性の職員が案内する。

(イ)

(意思疎通に係る合理的配慮の例)(イ)

(同右)

○ (同右)

○ (同右)

(同右)

(新設)

(意思疎通の配慮の具体例)

筆談、読み上げ、手話、点字、拡大文字等のコミュニケーション手段

を用いる。

○ 会議資料等について、点字、拡大文字等で作成する際に、各々の

媒体間でページ番号等が異なり得ることに留意して使用する。

○ 視覚障害のある委員に会議資料等を事前送付する際、読み上げ

ソフトに対応できるよう電子データ(テキスト形式)で提供する。

意思疎通が不得意な障害者に対し、絵カード等を活用して意思を

( とうみぎ  
同右 )

( とうみぎ  
同右 )

( とうみぎ  
同右 )

( とうみぎ  
同右 )

かいぎ しんこう あ しりょう み せつめい き  
会議の進行に当たり、資料を見ながら説明を聞くことが困難な視覚

かくにん  
確認する。

ちゅうしゃじょう とうじょう こうとう おこな あんない かみ め も わた  
駐車場などで通常、口頭で行う案内を、紙にメモをして渡す。

しよるいきにゆう いらいじ きにゆうほうほうとう ほんにん め まえ しめ わ  
書類記入の依頼時に、記入方法等を本人の目の前で示したり、分

かりやすい記述で伝達したりする。本人の依頼がある場合には、代読

や代筆といった配慮を行う。

ひ ゆ ひょうげんとう にがて しょうがいしゃ たい ひ ゆ あんゆ にじゅうひていひょうげん  
比喩表現等が苦手な障害者に対し、比喩や暗喩、二重否定表現

などを用いずに具体的に説明する。

しょうがいしゃ もう で さい ていねい く かえ せつめい  
障害者から申し出があった際に、ゆっくり、丁寧に、繰り返し説明

し、内容が理解されたことを確認しながら応対する。また、なじみの

ない外來語はさける、漢数字は用いない、時刻は 24 時間表記ではなく

ごぜん ごご ひょうき はいりょ ねんとう おいた め も ひつよう おうじ  
午前・午後で表記するなどの配慮を念頭に置いたメモを、必要に応じ

てきじ わた  
て適時に渡す。

かいぎ しんこう あ しりょう み せつめい き  
会議の進行に当たり、資料を見ながら説明を聞くことが困難な視覚

また ちょうかく しょうがい いいん ちてきしょうがい いいん たい  
又は聴覚に障害のある委員や知的障害のある委員に対し、ゆっく

り、丁寧な進行を心がけるなどの配慮を行う。(イ)

(どうみぎ  
同右)

る ー る かんこう じゅうなん へんこう れい  
(ルール・慣行の柔軟な変更の例)(イ)

(どうみぎ  
同右)

(どうみぎ  
同右)

(どうみぎ  
同右)

(どうみぎ  
同右)

また ちょうかく しょうがい いいん ちてきしょうがい いいん たい  
又は聴覚に障害のある委員や知的障害のある委員に対し、ゆっく

り、丁寧な進行を心がけるなどの配慮を行う。

かいぎ しんこう あ たっては、しょくいんとう いいん しょうがい とくせい あ  
会議の進行に当たっては、職員等が委員の障害の特性に合った

さぽーと おこな とう かのう はんい はいりょ おこな  
サポートを行う等、可能な範囲での配慮を行う。

る ー る かんこう じゅうなん へんこう ぐたいれい  
(ルール・慣行の柔軟な変更の具体例)

じゅんばん ま にがて しょうがいしゃ たい しゅうい もの りかい え  
順番を待つことが苦手な障害者に対し、周囲の者の理解を得た

うえ てつづ じゅん い か  
上で、手続き順を入れ替える。

た れつ なら じゅんばん ま ばあい しゅうい もの りかい え  
立って列に並んで順番を待っている場合に、周囲の者の理解を得

うえ とうがいしょうがいしゃ じゅんばん く べつしつ せき ようい  
た上で、当該障害者の順番が来るまで別室や席を用意する。

すくりーん しゅわつうやくしゃ ばんしょとう み すくりーん とう  
スクリーン、手話通訳者、板書等がよく見えるように、スクリーン等

ちか せき かくほ  
に近い席を確保する。

たにん せつしよく たにんずう なか きんちょうとう ほっさ  
他人との接触、多人数の中にいることによる緊張等により、発作

(<sup>どうみぎ</sup>同右)

また、<sup>ごうりてきはいいりよぎ むいはん がいとう</sup>合理的配慮義務違反に該当すると <sup>かんが</sup>考えられる例及び該当しない

と <sup>かんが</sup>考えられる例<sup>れい</sup>としては、<sup>つぎ</sup>次のようなものがある。なお、<sup>きさい</sup>記載されて

いる<sup>ないよう</sup>内容はあくまでも例示<sup>れいじ</sup>であり、<sup>ごうりてきはいいりよぎ むいはん がいとう</sup>合理的配慮義務違反に該当するか

否<sup>いな</sup>かについては、<sup>こべつ じあん</sup>個別の事案ごとに、<sup>ぜんじゅつ かんてんとう ふ</sup>前述の観点等を踏<sup>ふ</sup>まえて<sup>はんだん</sup>判断

することが<sup>ひつよう</sup>必要であることに<sup>りゅうい</sup>留意するものとする。(イ)

(<sup>ごうりてきはいいりよぎ むいはん がいとう</sup>合理的配慮義務違反に該当すると <sup>かんが</sup>考えられる例)(イ)

<sup>とう</sup>等がある場合、<sup>ばあい</sup>当該<sup>とうがいししょうがいしゃ</sup>障害者に<sup>せつめい</sup>説明の上、<sup>うえ</sup>障害の<sup>しょうがい</sup>特性や<sup>とくせい</sup>施設の<sup>しせつ</sup>

<sup>じょうきよう</sup>状況に<sup>おう</sup>応じて<sup>べっしつ</sup>別室を<sup>じゅんび</sup>準備する。

<sup>ひこうひょうまた</sup>非公表又は<sup>みこうひょうじょうほう</sup>未公表情報を<sup>あつか</sup>扱う<sup>かいぎとう</sup>会議等において、<sup>じょうほうかんり</sup>情報管理に係<sup>かか</sup>

<sup>たんぽ</sup>る担保が<sup>え</sup>得られることを<sup>ぜんてい</sup>前提に、<sup>しょうがい</sup>障害のある<sup>しいん</sup>委員の<sup>りかい</sup>理解を<sup>えんじょ</sup>援助する

<sup>もの</sup>者の<sup>どうせき</sup>同席を<sup>みと</sup>認める。

(<sup>しんせつ</sup>新設)

(<sup>しんせつ</sup>新設)

○ 試験を受ける際に筆記が困難なためデジタル機器の使用を求める

申出があった場合に、デジタル機器の持込みを認めた前例がないこと

を理由に、必要な調整を行うことなく一律に対応を断ること。

○ 会場内の移動に際して支援を求める申出があった場合に、「何かあ

ったら困る」という抽象的な理由で具体的な支援の可能性を検討せ

ず、支援を断ること。

○ 電話利用が困難な障害者から電話以外の手段により各種手続が

行えるよう対応を求められた場合に、内規上、当該手続は利用者

本人による電話のみで手続可能とすることとされていることを理由と

して、メールや電話リレーサービスを介した電話等の代替措置を検討

せずに対応を断ること。

○ 自由席での開催を予定しているセミナーにおいて、弱視の障害者

からスクリーンや板書等がよく見える席でのセミナー受講を希望する

もうして ばあい じぜん ざせきかくほ たいおう けんとう とくべつ  
申出があった場合に、事前の座席確保などの対応を検討せずに「特別

あつか  
扱いはできない」という理由で対応を断ること。

ごうりてきはいいりよ ぎ む はん かんが れい (い)  
(合理的配慮義務に反しないと考えられる例)(イ)

○ おんらいん こうざ はいしん おこな じぎょうしゃ おんらいん  
オンライン講座の配信のみを行っている事業者が、オンラインで

の しゅうだんじゅこう ないよう りかい むずか りゆう たいめん こべつ  
の集団受講では内容の理解が難しいことを理由に対面での個別

しどう もとめ ばあい とうがいたいおう じぎょう もくてき ないよう こと  
指導を求められた場合に、当該対応はその事業の目的・内容とは異

なるものであり、たいめん こべつしどう かのう じんてきたいせい せつび ゆう  
対面での個別指導を可能とする人的体制・設備も有

していないため、とうがいたいおう ことわ じ む じぎょう もくてき ないよう  
していないため、当該対応を断ること。(事務・事業の目的・内容・

きのう ほんしつてき へんこう およ かんてん  
機能の本質的な変更には及ばないことの観点)

また、ごうりてきはいいりよ あ しょうがいしゃ せいべつ ねんれい じょうたいとう はいりよ  
また、合理的配慮に当たっては、障害者の性別、年齢、状態等に配慮

するものとし、とく しょうがい じょせい たい しょうがい くわ じょせい  
するものとし、特に障害のある女性に対しては、障害に加えて女性で

(新設)

(新設)

あることも踏<sup>ふ</sup>まえ<sup>たいおう</sup>た<sup>もと</sup>対<sup>りゆうい</sup>応<sup>い</sup>が求められることに留意<sup>りゆうい</sup>するものとする。(イ)